

なぜ宗教は今まで必要とされてきたのか

3年4組23番 仲野 杏輔

1. はじめに

宗教とは、災害や病気などからくる恐怖を安心させるために、何かに頼って安心を得るために必要とされてきたものだと筆者は考えた。それにもかかわらず、宗教は時代と共に存在が薄れていっているのではないかと考え、宗教の必要性について研究しようと考えた。

2. 序論

ここで筆者の研究テーマを明らかにする。それは「なぜ宗教は今まで必要とされてきたのか」である。筆者がなぜこのテーマで調べようと思ったのかと言うと、筆者はある宗教の信者であるが、宗教を信仰する意味はあるのか疑問に思ったからである。

まず筆者は宗教とは何かについて調べた。宗教は災害や病気、死や不幸がなぜ起きるのか、人は死ぬとどこに行くのかといった根本的な疑問に答えるためにできたものである。そして、時代が変化していき、帝国や国家が出現して社会が複雑になるにつれて、今までのままでは救われない人々も多く存在していった。そこで、戦乱や飢饉身分制度や権力に苦しめられた人たちの間で新しい宗教が広がった。主な例が今の三大宗教の仏教、キリスト教、イスラム教である。

宗教の宗派がたくさんある中で、筆者は日本における仏教の始まりについて焦点をおいた。まず仏教は開祖ゴータマ・シッダールタ(後の釈迦)が教祖で、発祥地はインドである。その後、「自分の修行よりも人々の救済が重要である」と説きインドから世界に広がった。南ではミャンマー、タイ、カンボジアなど、東南アジアに広がり、北方では中央アジア、中国、朝鮮半島を経て日本に広がった。

仏教が日本に伝来後、元々日本で信仰されていた神道とで争いが起きた。その時日本では、豪族間で権力争いがあった。中国・朝鮮からわたってきた渡来人系の蘇我氏は仏教を取り入れることに賛成しており、反対に物部氏は仏教を取り入れることに反対していた。その後、権力争いとともに蘇我氏が勝利した。それと共に仏教が日本に急速に普及した。その後しばらく蘇我氏が実権を握ったが蘇我氏に対して反対派が大化の改新を起こし、天皇中心の律令政治へ進んでいった。その頃仏教は国家政策の一環としてすすめられ、乱などを抑えるために寺院が建てられ経典の写経と読誦が行われた。そこで筆者は昔と今の宗教の必要性を考えてみた。

3. 本論

ここでは昔と今の共通性があるもの、引き継がれてきたものについて明らかにする。筆者は宗教が引き継がれてきた中で、文化が主にかかわっているのではないかと考えた。そこで古くから受け継がれてきた中でいちばん身近なものは、行事だと考えた。行事には一つ一つ意味があり、その中で宗教と関係するものがあるためだ。例にあげてみると初詣や節分である。初詣は年が明けてから初めて神社に参拝することをいい、氏神さまや、恵方(その年の縁起が良いとされる方角)にお祭りされている神社、崇敬する神社などにお参りし、新しい年の平安と無事を祈ることだ。節分は豆まきが神社や各家庭でおこなわれているが、これは平安時代より宮中で、大晦日に邪気や災厄を祓う行事として行われていた追儺の儀式が起源とされている。また、厄年などは立春から始まるとして、現在でも節分に厄除けの神事を行う地方も多く見受けられている。

ではなぜ宗教が関わっていると考えたかについてだが、それは神様が関わっていて、神様は目に見えないもので我ら人間が想像で崇拝しているものだからだ。昔から宗教は多くの神様を崇拝していたり、1柱を崇拝するものもあり、信仰することで厄災などから身を守ってくれると考えられてきた。厄災から身を守ってくれるなどということが共通していて、今の現代に引き継がれてきた。

もう1つ例にあげると、偶像崇拜という行為も昔から現代に引き継がれていると筆者は考えている。

仏教が誕生して以来、偶像崇拜に対しては以下のような見解がある。

【500年は偶像崇拜がなかった。しかし壁や柱にアショーカ王時代の仏塔に欄楯の仏伝レリーフなどが仏陀のいるべき場所に法輪や菩提樹や仏塔が刻されていて、仏陀の姿だけではなく、見る者に不思議な印象を与えていた。それを見た人々は拝んでいたのが、偶像崇拜がなかった訳ではないが少なくとも仏陀の姿を人間のように造形化することは憚られていた。ユダヤ教や初期の基督教の偶像を禁止していた。他にもイスラム教は現代でも完全に禁止されている。日本の神道にも偶像崇拜はなかった。

紀元1世紀頃から北インドのガンダーラ地方で仏像彫刻が始まった。北上した仏教思想と東漸した西方のギリシャやローマの造形技法の融合によるものと言われている。相前後して北インドのマトゥラーでもインド独自の仏像彫刻が始まり、これ以後、仏像彫刻は全インドに、そしてさらに仏教の伝播するすべての地域に広まっていった。】

これらの情報は、【エンサイクロメディア空海】というものから引用してきたものである。

では現代ではどのように偶像崇拜が必要とされているのか。筆者はアイドルや推しが従来の偶像の代わりに今の人達が崇拜するものであると考えた。アイドルの定義について、ここで確認しておく。確認に当たっては【日本国語大辞典】を引用してきた。1.偶像、2.崇拜されるものや人、3.あこがれの的。熱狂的なファンをもつ人と記されている。第1・第2の意味で偶像や崇拜されるものとある。このことからアイドルは偶像と同じ立場であり、それらを崇拜する人達がいるので、立派な偶像崇拜と呼べるだろう。このことから形や存在が変わっても、人間はなにかにすがらる必要や崇拜する必要があると考えた。

次に筆者は国際高校の3年生にアンケートを行った。質問内容としては、「宗教は必要だと思うか。」というものである。次の図はアンケート結果である。

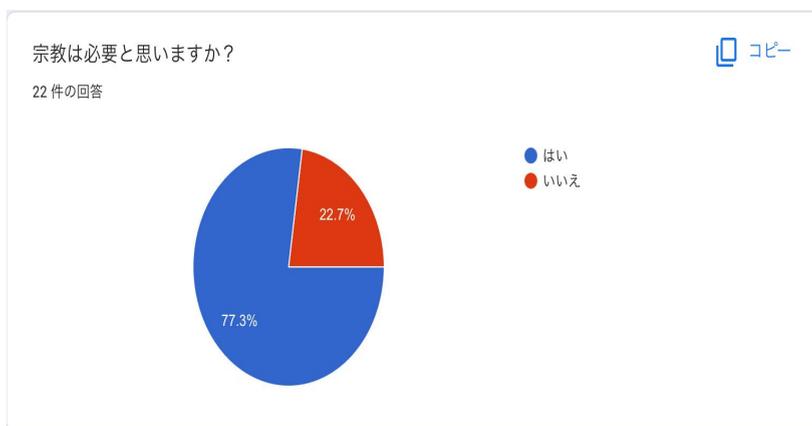


図1

国際高校の3年生約160名中22名の結果になるが、宗教は必要であるという意見が、77.3%必要でないという意見が22.7%だった。

必要であると答えた人達の中で多かった意見が、「人間は心の拠り所が必要だから」や「宗教があることで色々な文化ができていけるから。」という意見があった。反対に、必要でないという意見で多かったのは「宗教がなくても困らない、友達がいればポジティブに生きていける」や「神様を元々信じていない。存在していない。」という意見があった。そこで筆者は文化庁文化庁宗務課がまとめた、【宗教関連統計に関する資料集】というものから「宗教を信じているか信じていないか」という図があったので、上の図と比べてみた。

図 6-1 「宗教を信じるか」に関する意識の推移（昭和 33～平成 25 年）

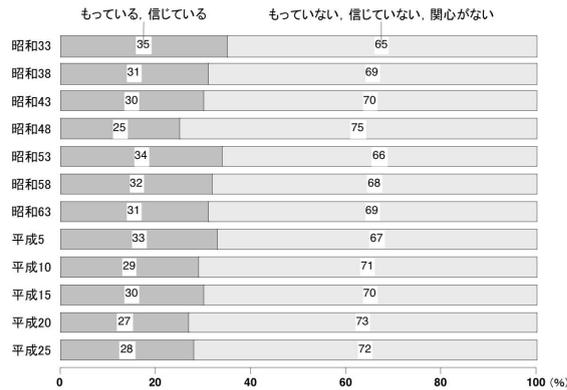


図 2

出典:各年「日本人の国民性調査」(統計数理研究所)より

この図は昭和33年から平成25年の間でとった結果で規模的に違いがあるが、質問内容が似ていたので引用した。結果としては、信じないという意見が多く、筆者のアンケート結果とは反対であった。

宗教的思考の中で他にも昔から引き継がれてきて、関わっているのは医療だと筆者は考えている。近年では、医療が発展して色々な怪我や病気が治せるようになってきた。だが、心の病や人の気持ちなどは今の医療では治せないと筆者は考えている。この先の将来、心の病などの治療法が見つかればいいが見つからなければ、そこで役に立つのは宗教的思考だと筆者は考える。なぜなら、筆者は以前ひとつの仮説を立て、その仮説が医療に繋がる点があったからである。その仮説とは「病気や災害など目に見えないことから来る恐怖を無くすためにはなにかに頼って心の安心を得るため」というものだった。では医療とどの点で繋がるのか。医療は患者の生死に関わる仕事で、筆者の仮説では目に見えない恐怖と言っている。患者側からすると死の恐怖というものがありそれが当てはまると考えたからである。

ではなぜ宗教的思考が医療に必要となってきたのか。古くから伝えられている言葉の中に「病は気から」という言葉がある。言葉の意味としては、気持ち次第では病気は良くも悪くもなるというものである。筆者はその言葉は宗教的思考と似ていると考えた。宗教は心の安らぎに何かを崇拝するというものだが、それは病気になった時にも何かを崇拝して自分の体の病気を良くして欲しいと願っていると考えられる。医療は、科学が発展していき今では治せるようになった病気や怪我が多く存在している。そんな中で人の心の病気や病だけは、科学でどうすることも出来ないと筆者は考えている。そこで必要となるのがメンタルケアや宗教的思考が必要になってくると考えている。

・結論

神様を信じている、宗教を信仰している必要としている人達がいる中、図の1・2の結果反対意見が多いことが調べる中でわかったが、筆者はこれからも宗教は必要であると考えている。信じないという意見が多いのは悪いイメージや神様が存在していない、胡散臭いことだと思っている人が多いからではないかと筆者は考えている。実際に宗教団体が事件を起こした事例もある。

しかし、全ての宗教が悪いという事ではない。筆者が思う宗教は、人の悩みや不安を安心に変えるものだと考えている。そのために悪いイメージを無くすには、まずは市や町などで宗教とはどのようなものか、どのような教えを宣教しているのかなどを少しずつ規模を広げて行けば教えた宗教も広まり、不安に思っている人たちも安心に変わっていくのではないだろうか。他にも身近なところからも宗教的思考が繋がっていると感じるようになると必要だと感じる人が増えると筆者は考えている。

・終わりに

筆者は宗教がなぜ必要かこれからも考え続けようと思う。この論文を通して感じたことは、古くから現代まで必要とされてきたものがほかにも何かあるか調べてみようと感じたことだ。調べた上でどのように必要とされてきたのかなんのために存在してたのかを考えていきたい。

・出典

<https://www.mikkyo21f.gr.jp/kukai-ronyu/miyasaka/post-249.html>2022年10月25日

[https://school.japanknowledge.com/jks/display/?q=アイドル
&lid=200200030a98SRbhJrFM](https://school.japanknowledge.com/jks/display/?q=アイドル&lid=200200030a98SRbhJrFM)2022年10月25日

[https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/shumu_kanrentokei/pdf/h26_ch
osa.pdf](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/shumu_kanrentokei/pdf/h26_chosa.pdf)2022年10月25日